

未来を創る鹿児島「教育の情報化」推進プラン Ver.1.0(概要)

I プランの目的と位置付け

- 県全域で等しく質の高い教育を受けられるための環境整備を推進
- 学校教育の情報化の推進に関する法律に基づく県の施策についての計画
- 令和5年度からの3年間を計画期間とし、計画期間中においても随時「Ver.」の更新により充実・見直し

II 本県における教育の情報化の基本的な方針

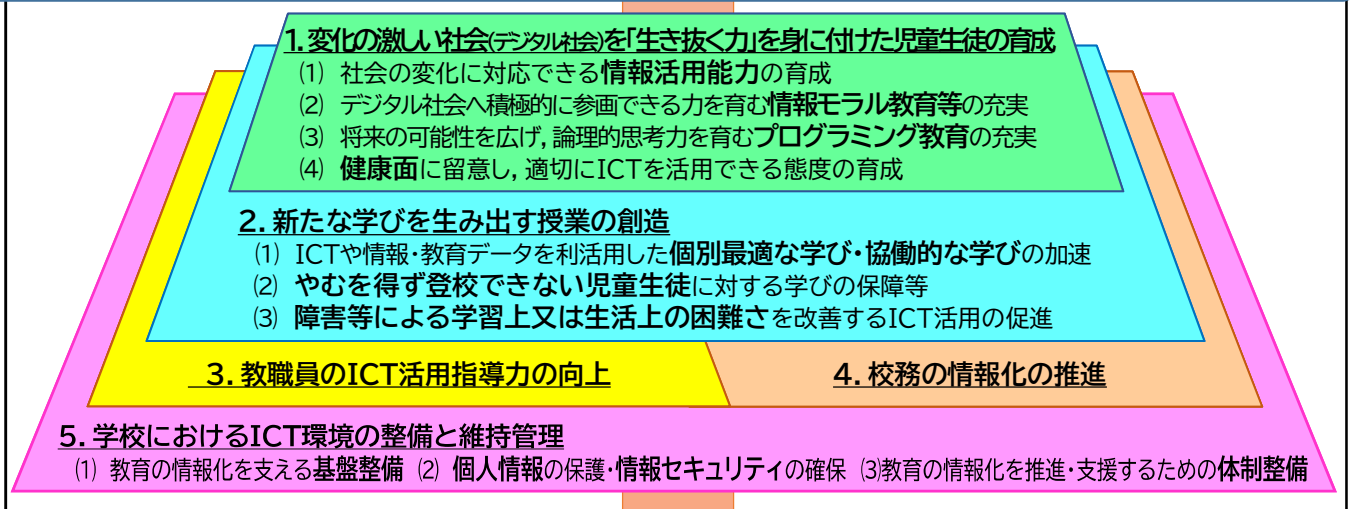
- 予測困難な時代において、「夢や希望を実現し未来を担う鹿児島の人づくり」の観点から教育の情報化を推進
- ICTを「文房具」として日常的に活用し、主体的に考え、協働的に議論し、納得解を生み出す力を育成
- 全ての学校において、日常的にICTを活用できる環境を整備し、その活用を促進
- 情報化が急速に進展する社会において、子供たちに身に付けることが求められている情報活用能力の育成
- 教師のマインドセット（授業観等）の変革と、主体的に学んでいく姿勢や管理職のリーダーシップの発揮
- 本県の魅力ある教育資源とICTのベストミックスによる鹿児島教育DXを推進し、「学びの変革」により、本県ならではの「令和の日本型学校教育」を実現



III 本県における教育の情報化の推進に当たって大切にすべき視点

- 1 児童生徒の力を育む手段としてのICT活用
 - 目的は児童生徒に必要な資質・能力を身に付けることであり、ICTはそのためのツール(手段)
 - 教師・児童生徒共に「まずはやってみる」という姿勢で、試行錯誤による不断のPDCAを実施
- 2 「リアルな体験」や「つながる経験」とのベストミックスを生み出すICT活用
 - 本県の魅力溢れる豊かな教育資源を積極的に活用し、「リアル」×「デジタル」のベストミックスを推進
 - ICTを人や自然、文化等と「つながる」手段として積極的に活用し、交流等を加速
- 3 互いの学び合いによるICT活用指導力の向上～1人の100歩ではなく、「100人の1歩」の積み重ね～
 - 教師も「誰一人取り残さない」、互いに助け、学びつつ教え、教えつつ学ぶ姿勢が重要
 - 県教委として多様な教育実践をつなぎ、誰もが取り残されない形で、新たな学びの変革を推進

IV 具体的な施策



夢や希望を実現し、未来を担う鹿児島の人づくり